

韓国向け廃バッテリー輸出

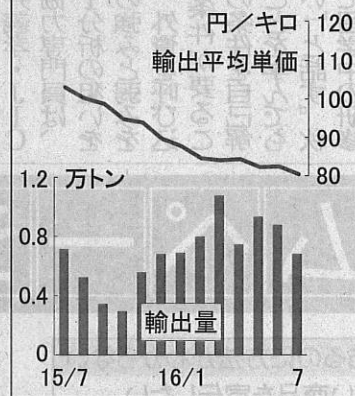
# 単価、4年半ぶり安値

7月、22%減6801ト

財務省が30日発表した貿易統計速報によると、韓国向けの廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の7月輸出平均単価は前月よりキロ2円安い80・6円にダウンし、2012年12月以来の安値となった。韓国二次精錬業界の一斉摘発の影響もあり、輸出気運が下がったことが考えられる。輸出量は前月比22

## 韓国向け廃バッテリー

出典：財務省貿易統計



・4%減の6801ト。鉛リサイクル業が盛んな韓国向けの廃バッテリー輸出は、3月に過去最多の1万ト超を記録し、5〜6月も9000ト前後の高水準だった。しかし、6月下旬に韓国の二次精錬メーカー11社が、ヒ素を含んだ精錬滓の違法投棄容疑により摘発され、うち4社の経営幹部が拘束された。日本国内で発生する廃バッテリーの3〜4割は韓国向けに輸出されているが、この行政処分によって輸出先が操業停止となる可能性

が出たため先安観が広がり、市中取引価格も80円近くから70円台半ばに小緩んだ。2月以降は下げ止まり状態だった輸出平均単価は80・6円に一段安となった。4年7カ月ぶりの

安値を更新。年初と比べて7・2円、前年同月からは19・7円下がったことになる。7月輸出量は7000トを下回り年初来最少となったが、先日発表された韓国側の7月輸入統計では8188トの高レベルを計上しており、市場関係者も「輸出が止まっている様子はない」と話す。韓国国内ではすでに、各社に違法投棄に対する判決が出始めているようだが、その中ではヒ

素に関する立証が難しいとの情報もあり、操業が継続する公算が高くなってきた。主な港別の輸出量（平均単価）は東京港1471ト（80・4円）、大阪港904ト（79・6円）、横浜港811ト（81・8円）、清水港616ト（80・1円）、石狩港511ト（82・2円）、戸畑港428ト（79・2円）。最多積み出し港の東京港が10カ月ぶりの少なさとなり、全体輸出量を押し下げた。